

パチンコがやめられない 依存脱却へ業界が支援

パチンコにはまって借金が増えるなどし、生活が破たんする「パチンコ依存問題」を抱える人への支援態勢の整備が、パチンコ業界で進んでいる。大分県内でも県遊技業協同組合（県遊協・金在哲理事長）が中心となり、相談機関を紹介するなど支援に取り組んでいる。

今年四月、全日本遊技事業協同組合連合会



パチンコ店内に掲示されたRSNのポスターを指し示す店員＝大分市内で

（全日遊連）が出資するパチンコ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク（RSN）」が沖縄県にできた。本人や家族などから電話による無料相談を受け付け、問題を整理し、解決のために必要な相談機関や地域の精神保健福祉センターなどを紹介する。設立以来、毎月約百件の相談が寄せられている。

大分市のパチンコ店経営者、力武一郎さん（42）＝県遊協理事＝は「パチンコなどのギャンブル依存は、借金といった生活上のさまざまなトラブルとして表面化し、自殺や犯罪につながることもある」と話す。二〇〇一年、力武さんの元に「パチンコで生活が破たんした」という顧客アンケートが届き、全日遊連に問題提起したことがRSN設立のきっかけとなった。

「生活環境や精神的なものなど問題の根は深いが、相談先を知らない人が多いのに驚いた。問題解決のために相談機関を通じて業界、本人、家族それぞれが抱えている問題に再度、目を向けることが大切」と言う。

RSN設立を受け、県遊協は県内約百六十店舗にポスターを配り、掲示を呼び掛けている。三浦教之専務理事は「業界として放っておけない問題。営業活動に反するのではないかとの声もあるが、お客様に健全に楽しんでもらうためにも、支援活動に積極的に取り組んでいきたい」と話している。

RSN（TEL050-3541-6420）の相談受け付けは午前十時から午後四時まで（土・日曜日、祝日を除く）。ホームページは<http://www.geocities.jp/rsnokinawa/>

[2006年08月12日09:26]

朝刊ニュース一覧

- 「社会貢献ファンド」開設→NPOに橋渡し 県が活動支援 - 08月12日09:18
- 地域ぐるみでの防災対策 県が事例集作製 4200地区に配布 - 08月12日09:20